

第4回北大山岳館講演会

北海道の高山植物相の位置づけ

— 特にアポイ岳を中心として —

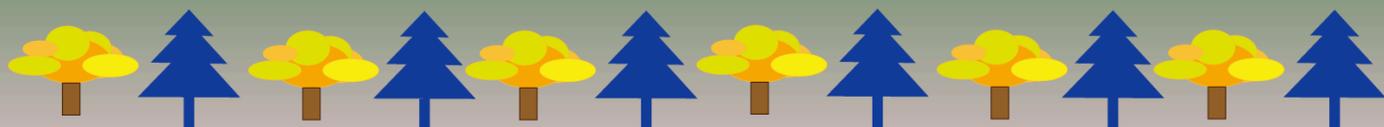
講師：渡邊定元（元東京大学北海道演習林教授）

2011年11月11日（金）14:00～16:00

会場：北大山岳館（北大構内 / 恵迪寮東側）

主催：北大山岳館運営委員会 Tel. 011-716-2111 内線 5138

携帯 090-6870-5120



エゾキスミレ

Viola brevistipulata W. Becker subsp.
hidakana S. Watanabe var. *hidakana*

講演要旨

地球生態系にあって、太平洋に面する東アジアの島嶼は、世界のなかで唯一湿潤気候に属し、熱帯から亜寒帯にかけて熱帯降雨林・亜熱帯照葉樹林・暖温帯照葉樹林・冷温帯落葉樹林・冷温帯針広混交林・亜寒帯落葉樹林が成立する。日高山脈は亜寒帯落葉樹林の山岳型としてとらえられる。この特性は西欧の研究者から認識されていない。北海道の高山植物相は湿潤気候下に成立するフロラの特徴をもち、興味深いことに大雪山彙は北アジア太平洋要素、日高夕張山系は欧亜要素に特徴があり、日高と大雪の高山植物フロラは森林帯の特徴と逆の現象が見られる。この要因について判りやすく解説する。そして地球温暖化によるアポイ岳 50 年間の高山植物相の衰退とその対策について紹介する。

渡 邊 定 元 (わたなべ さだもと)

- 昭和 9 年 (1934) 生 静岡県出身
- 学 歴：北海道大学農学部卒 農学博士 (東京大学)
昭和 27 年北大山岳部入部、北大山の会会員
- 専 門：植物地理学、生態系管理学、森林生態学、樹木学
- 職 歴：1985 年 東京大学農学部 教授
1995 年 三重大学生物資源学部 教授
1998 年 立正大学地球環境科学部 教授
2000 年 立正大学環境科学研究所長
2006 年 森林環境研究所 総括研究員 (現職)



○主な社会的活動：国連食糧農業機関.FAO Consultant

日本学術振興会生物-電子工学インターフェースに関する研究開発専門委員
林野庁熱帯林問題に関する懇談会専門部会長
環境庁環境影響評価制度総合研究会技術専門部会委員
静岡県富士山 100 年プロジェクト 3776 構想研究会会長
NPO 法人富士山自然の森づくり理事長

- 主な著書・編書：「自然保護ハンドブック」共著、東大出版、昭和 58 年
「地球環境工学ハンドブック」共著、オーム社、平成 3 年
「樹木社会学」東大出版、平成 6 年 日本林学会賞受賞
「自然林の復元」編著、文一総合出版、平成 6 年
「森とつきあう」岩波書店、平成 9 年
「富士山自然の森づくり」、日本森林技術協会、平成 18 年
「主張する森林施業論」、J-FIC 社、平成 19 年
「森の芽生えの生態学」共著、文一総合出版、平成 20 年
「富士：信仰と芸術の源」共著、小学館、平成 21 年
「日本樹木誌」共著、J-FIC 社、平成 21 年